

# 第 7 次 地 区 福 祉 計 画 香 櫨 園 分 区

平成 2 2 年 ~ 2 6 年

## 福祉目標

**こころ豊かな 愛のあるまち香櫨園**

高齢社会の進展に伴い、わが街香櫨園でも、家庭の中で孤立・孤独に過ごされるご高齢の方や認知症による徘徊なども増えてきました。

また障がいを持たれた方の居場所のなさや、子育て中の親の孤立による幼児虐待についても地域の生活の生活課題です。

困った時には助け合い、支え合いのある、愛のある街で、一人一人が安心して自分らしく暮らしていけるまちづくりを目指します。

## 活動の柱

1. みんなで助け合う活動をすすめる。
2. みんなでつながり会う活動をすすめる。
3. 様々なふれあいの場がある活動をすすめる。

近隣や地域でご高齢の一人住まいの方をちょつと気かけたり、閉じこもりを防ぐために、地域のサロンなど行事にお誘いしたり、認知症の徘徊の方にも声をかけたりしながら、元気な時にはボランティアで人の為に尽くし、ボランティアがかなわない身体になったらボランティアを気持ち良く受け入れる。

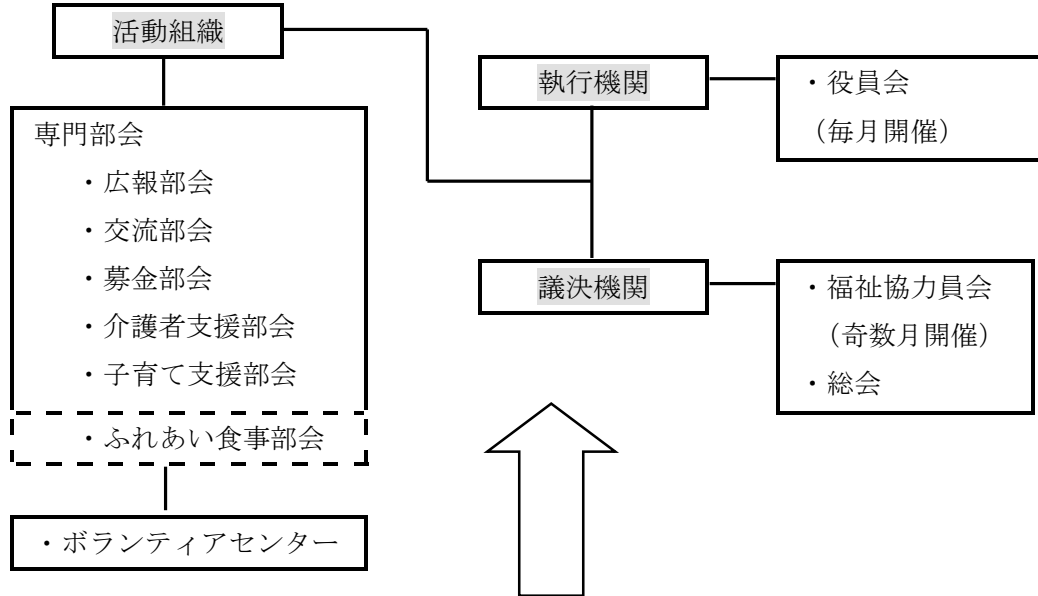
そのために必要な活動を引き続き計画していきます。

## 重点課題

1. 多様な活動を担う人材確保
2. 創造性のある楽しい活動スタイル
3. 古い活動の整理と新しい活動の開拓

福祉の様々な活動を実践していくためには、年代を問わず出来ることを少しずつ出来る人が担っていく必要があります。また、ご高齢になってもお客様ではなく一緒に働きたいという方もあり、楽しく参加出来る活動スタイルが求められています。本当に一人一人が欲しい活動をみんなで作り上げていくことを目指します。

## 香櫨園分区 5カ年図（組織・活動）



福祉協力員の選出母体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各町から3名以上</li> <li>・民生委員児童委員全員</li> </ul>
------------	--

登録ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て「さくらんぼ」支援</li> <li>・ふれあい食事会調理</li> <li>・ふれあいサロン「さくら」支援</li> <li>・ボランティアセンターへの支援 家事援助など</li> </ul>
----------	--

- \* 広報活動・・・広報紙「ふれあい香櫨園」を全戸配布
- \* 交流活動・・・80歳以上の方のつどい「香寿会」を2カ所で開催
- \* 募金活動・・・日本赤十字、共同募金（赤い羽根、歳末たすけあい）運動
- \* 介護者支援活動・・・「介護者のつどい」年2回開催
- \* 子育て支援活動・・・子育てひろば「さくらんぼ」毎月1回開催
- \* ふれあい食事会・・・70歳以上の独居の方対象 毎月2回開催
- \* 地区ボランティアセンター・・・相談窓口、ボランティア派遣、毎週水曜日
- \* ふれあいサロン「さくら」・・・地域のふれあいの場 毎月1回 2カ所で開催
- \* その他・・・「敬老のつどい」「研修会」「見学会」（役員会で企画）

### 役員会の構成

分区長（1名） 副分区長（3名） 会計（1名） 各部長・代表（7名）

## 第 7 次 計 画 と 年 度 計 画

事業名	第 7 次 計 画	具 体 的 な 計 画	年 度 計 画			
			22年	23年	24年	25年
広報活動	・「ふれあい香榎園」を福祉の情報紙として年3回発行し、全戸配布する・必要に応じてチラシを作成する。	・地域住民のニーズ把握のための調査活動(アンケート)を行う・「ふれあい香榎園」は福祉情報をわかりやすく紹介する。	・アンケートによる調査実施と分析	・調査活動を紙面に生かす		
交流活動	・「香寿会」を開催する。80歳以上の方のついで、孤立や孤独予防のため、年1回2カ所で開催する。・障害者施設訪問などの交流をすすめる。	・参加者で希望のある方の送迎ボランティアをボランティアセンターと一緒に開発する・高齢者の催しで、参加対象になりにくかった男性に焦点をあて「男の料理教室」を検討する。	・送迎タクシー・車椅子の検討 ・「男の料理教室」の検討 ・障害者施設訪問や一日体験を実施する。	・障害者施設訪問や一日体験を福祉協力員にも呼びかけ広げていく。		
募金活動	・日本赤十字社員増強運動(5月)・共同募金運動(10月)・歳末助け合い運動(12月)を実施する。	・各募金額は前年度を上回ることを目標に実施する・募金集めの方法は各町の方法で行うが、福祉協力員の協力により実施。そのため研修会も行う	・「募金活動のしおり」発行 ・募金部員の研修会実施	・募金活動について福祉協力員の理解を得るための研修会を実施する。		
介護者支援活動	・「介護者のついで」を開催する。寝たきりや認知症の高齢者などの家族介護者の方を対象に、年2回実施する。	・家族介護者が参加しやすいように開催月や曜日の検討をする・福祉専門分野の人と話せて相談がしやすいような会運営にする。	・開催月・曜日の検討により、参加者を増やす	・家族介護者のニーズにそった活動検討		
子育て支援活動	・子育てひろば「さくらんぼ」を開催する。月1回(第1金)夙東会館で実施する。・子育てに関係した団体と積極的に連携していく・若いボランティアの受け入れの場とする。	・子育て情報を提供する。虐待防止や親の悩み相談は、年輩ボランティアが対応する。情報提供で行政との結び役になる・とらいヤルウイークの受け入れ、大学・保育所等と連携する。	・民生児童委員と協力し、0歳児参加者を増やす・とらいヤルウイークを積極的に受け入れる。・近隣大学と特に保育科の学生との連携を行う。	近隣保育科を持つ大学と保育・子育てについて共通課題を話し合う場を持つ。		
地区ボランティアセンター	・福祉に関する相談、ボランティア活動に関する情報提供、ボランティア派遣による生活支援を行う。香榎園市民館で毎週水曜日と「さくら」で火曜日増設して開設する。・電話訪問実施・福祉情報の集まるしくみづくりを行う	・相談業務は個人より、団体・施設や学校関係が増えてきたので、その要請にこたえる。・緊急通報・災害時一人も見逃さない活動のための情報の整理をする・ボランティアの人材確保・さくらの運営方法を検討する。	・施設・学校のボランティア要請ニーズの把握し協力する。 ・民生児童委員にボランティア要請者の発掘の協力を依頼する。	・車椅子ボランティアの立ち上げを行う。 ・災害時一人も見逃さない活動の情報整理と自治会への働きかけを行う。	・2カ年の活動の中で不十分だった点を補強する年とする。	・時流より新たに出てきた課題への対応と点検の年とする。
ふれあいいきいき活動 ふれあいサロン「さくら」 「敬老のついで」	・ふれあいサロン「さくら」を開催する。地域住民の集いの場として、月1回づつ香榎園市民館と森具集会所で実施する。・「敬老のついで」を開催する。70歳以上のご高齢の方を敬う会として実施する。	・「さくら」の運営方法の検討をする。自治会・民生児童委員と協力して参加者を増やす。障がい者の受け入れを考える。・「敬老のついで」は参加者のニーズにそったイベントにし、参加型の運営を考える。	・さくらの運営者などを検討する。・敬老のついでの新イベントを考え、参加型を検討する。	・「さくら」でひきこもりの人や障害者も可能な限り受け入れる。		
ふれあい食事会	・「ふれあい食事会」を開催する。70歳以上の独居の方を対象に、月2回昼食をしながら交流の場としていただく。	・「ふれあい食事会」の運営方法の検討。参加型運営を考える・「男の料理教室」を開催し、男性の食への自信の応援をする。	・部にするための検討をする。・調理ボランティアを発掘する。	・部のひとつとして、福祉協力員で運営する。		
福祉学習の推進	・福祉協力員、登録ボランティア、地域住民を対象に福祉学習をすすめる。・小学校での福祉学習の協力をする。	・地域住民対象の研修会・子どもの福祉学習を実施する。そのことで人材発掘をする。	・協力員研修会2回・地域住民対象研修会1回開催	・香榎園小学校との「福祉学習」実施		
地域団体、専門機関との協力体制・連携づくり	・地域団体との交流会を実施する。 ・地域ネットワーク連絡会を立ち上げ、地域団体や専門機関との協力関係、連携をつくる。	・地域団体との交流会の実施 ・高齢者香榎園地区ネットワーク会議を立ち上げる。	・地域団体との交流会実施 ・地区ネットワーク会議の検討	・地域団体と具体的なテーマで話し合いをする。・地区ネットワーク会議を立ち上げる。		
調査活動・福祉情報の収集	・住民の福祉ニーズの把握をするための調査活動を実施する・災害時の対応内容の検討をする。	・調査活動や懇談会で日常の見守りや災害時の対応の情報収集をする。	・調査活動(広報部)を実施	・緊急通報や災害時の対応の検討		

組織・財政の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社協会員会費を実施する。</li> <li>・ふれあい食事会を部に移行する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員会費は前年度会員数の維持をし、会員用に主旨や用途のわかるパンフをつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員会費制度の学習会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員会費制のパンフを作成する。</li> </ul>		
人材養成・確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ボランティア研修会」を実施し、ボランティアの発掘をする・定年後の男性や次の時代を担う若い人のボランティアを確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機会を通して若い人に社協活動の体験・紹介をしたり、研修会を実施する。</li> <li>・若い人が担える楽しい活動スタイルにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア研修会実施・ふれあいサロン「さくら」の招待などでPR。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間のない若い人が担える、ちいさなボランティアの提案をする。</li> </ul>		

26年

・5カ年のまとめと点検と新たな課題の抽出の年とする。

